

Mémoires 2018

天皇賞(秋)



第158回天皇賞(秋)(GI)優勝馬 レイデオロ

堂々の走りで並みいるライバルを圧倒

当初は出走を表明していたダービー馬ワグネリアン、前年の2歳王者ダノンプレミアムという2頭の3歳馬が相次いで回避。1番人気は春に大阪杯で悲願のGI初制覇を達成したスワーヴリチャード、差のない2番人気に前年のダービー馬レイデオロと、4歳勢が中心を担うこととなった。

馬場入り直後、ダンビュライトが放馬で競走除外となり、1984年のグレード制導入以降では最少タイの12頭立てとなった平成最後の天皇賞(秋)。ゲートが開くとスワーヴリチャードが大きく出遅れ、スタンドが大きくどよめく。さらに運の悪いことに、他馬と接触したスワーヴリチャードは、最後方で1コーナーを回った。

先頭に立ってレースを引っ張ったのは、前年の菊花賞を勝っているキセキだった。それを追うのは前年の皐月賞馬アルインと、紅一点のヴィブロス。道中は速からず、遅からず。3、4コーナーにかけて少しずつピッチを上げていく絶妙のペース配分で逃げたキセキが、直線に向けて粘り込みを図る。これに外から迫っていたのがレイデオロだった。

中団の6番手を追走していたレイデオロは、鞍上のクリストフ・ルメール騎手が「ちょうどいいペース」と振り返ったように、抜群の手応えで直線に入ると徐々に差を詰めていく。そして坂上がった残り300m過ぎ、満を持してルメール騎手が右ムチを振ると、一気に加速。力強くキセキを交わし、サンクレーザーの追撃も完璧に抑えてみせた。

ルメール騎手はこれで秋華賞、菊花賞に続く3週連続GI勝ち。JRAタイ記録となるGI年間6勝目となった名手は「コンディションは完璧だと思いました。藤沢(和雄)先生とスタッフの仕事は完璧でした」と、尾形藤吉元調教師の7勝に次ぐ歴代2位の天皇賞(秋)6勝目をあげた伯楽を称えた。

オールカマーの勝利から中4週での戴冠となったレイデオロだが、前年のダービー制覇以降は十分なレース間隔を取りながら使われてきた。「初めて短い間隔で使って、馬がいつになくやる気十分でした」と話した藤沢和雄調教師。じっくりと成長を促され、その能力を伸ばしてきたダービー馬が、見事に2つ目のタイトルを獲得した。

▶天皇賞は春・秋を通じて初勝利となったクリストフ・ルメール騎手。



▶前年の菊花賞馬キセキが帽色・橙・白の絶妙のペースで逃げ、先頭で直線へ。



第158回天皇賞(秋)(GI)

10/28 東京競馬場 2000m(芝・左) 晴・良 12頭

着順	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	調教師	タイム/着差	人気	通過順位
1	レイデオロ	牡	4	58	C.ルメール	藤沢 和雄	1:56.8	②	⑥⑤⑤
2	サンクレーザー	牡	4	58	J.モレイラ	浅見 秀一	1 1/4	④	⑦⑦⑦
3	キセキ	牡	4	58	川田 将雅	中竹 和也	ハナ	⑥	①①①
4	アルイン	牡	4	58	北村 友一	池江 泰寿	1	⑤	②②②
5	ミッキークロケット	牡	5	58	和田 竜二	音無 秀孝	ハナ	⑧	⑤⑤⑤
6	サクランブルール	牡	7	58	田辺 裕信	金成 貴史	2 1/2	⑩	⑨⑧⑧
7	マカヒキ	牡	5	58	武 豊	友道 康夫	3/4	③	⑩⑩⑨
8	ヴィブロス	牝	5	56	福永 祐一	友道 康夫	ハナ	⑦	②③③
9	ステファノス	牡	7	58	C.オドノヒュー	藤原 英昭	2 1/2	⑨	④③③
10	スワーヴリチャード	牡	4	58	M.デムーロ	庄野 靖志	1 1/2	①	①⑩⑩⑩
11	アクションスター	牡	8	58	大野 拓弥	和田 勇介	8	⑫	⑪⑫⑫
12	ブラックムーン	牡	6	58	横山 典弘	西浦 勝一	2 1/2	⑪	⑧⑧⑨
—	ダンビュライト	牡	4	58	戸崎 圭太	音無 秀孝	競走除外	—	—

単勝④310円 複勝④150円 ⑨310円 ⑩300円 枠連(4-6)720円
馬連④-⑨1,520円 馬単④-⑨2,370円 ワイド④-⑨640円 ④-⑩690円 ⑨-⑩1,630円
3連複④-⑨-⑩6,420円 3連単④-⑨-⑩24,230円

ハロンタイム 12.9-11.5-11.8-11.5-11.7-11.6-11.3-10.9-11.6-12.0
通過タイム 600m③36.2-800m④47.7-1000m⑤59.4-1200m⑥1:11.0-1400m⑦1:22.3-1600m⑧1:33.2-1800m⑨1:44.8

優勝馬 レイデオロ

2014.2.5生 父キングカメハメハ 母ラドラーダ 母の父シンボリクリスエス
安平・ノーザンファーム生産 馬主:(有)キャロットファーム